

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	大腸がんにおけるプロテアーゼ PRSS22 の発現と病理学的事項および予後との相関の解析
	研究目的	<p>・蛋白質分解酵素（プロテアーゼ）はがんの進展や浸潤・転移に重要な役割を果たしており、がん治療の標的になりうると考えられています。私たちはインターネットで公開されているがんのデータベースを調査し、がんが存在量が増加し患者さんの予後不良に関わっている可能性があるプロテアーゼとして、「PRSS22」を見つけ出しました。この研究では、実際にがんが PRSS22 の量が増加し、それに応じてがんの悪性度が変化しているのかどうかを大腸がんの症例を調べて確かめることを目的としています。</p> <p>・調べさせていただく症例は、2014 年～2015 年に当センター消化器外科において原発性大腸がんと診断されて大腸切除術を受け、試料の提供につきがん研究に対する包括的同意を書面でいただいた 300 症例です。</p>
	研究期間	西暦 2018 年 4 月 13 日～西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	菊地 慶司(臨床研究所がん治療学部・主任研究員)
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所がん治療学部、消化器外科、病理診断科、臨床研究所がん分子病態学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	本施設単独で実施。 海外への試料等の提供の予定なし。